

「復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業」の一環として、福島大学研修が実施されました。

平成27年10月16日（金）5時間目から7時間目に、福島大学研修を行いました。5時間目、6時間目は福島大学より2名の先生に講演をしていただきました。

講演会では初めに、福島大学行政政策学類 教授 今西一男先生より「地方は本当に消滅するのか」というテーマでお話をいただきました。先生は、「これまでの都市計画は人口増加や成長を前提に進められてきていたが、これからは縮んでいく社会に対しての計画、仕組みを作っていくことが課題である」、と話されていました。また、『地方消滅』という言葉が危機感を煽っているが、地域社会の弱点は『地方創生』の出発点でもあり、地域の規模に応じた創意工夫の必要性を最後に提起されました。



続いて、福島大学人間発達文化学類 特任教授 阿部成治先生による「ルール地方のまちづくり」についてお話をいただきました。ドイツで最も人口が集まった地域であるルール地方が、炭坑や製鉄所の閉鎖により人口減少と高齢化が進んでいます。それに伴う街づくりが各地で行われていることを話されました。さらに、深刻化する難民問題が今後のまちづくりに影響を与えていくと予測されていました。



7時間目は講演をもとに、「会津のまち、ひと、仕事を抱える課題と活性化策」というテーマで、クラスごとにグループディスカッションを行いました。

途中からは、今西先生、阿部先生も交えてのディスカッションになりました。



ディスカッションからの抜粋

- ・会津は名所や食べ物などの観光資源が多く、それぞれにPRも行われている。しかし、実際には観光客の受け入れ体制としては不十分なところはまだあるのではないかと。
- ・自分たちが町の歴史や伝統文化について知らないから会津が持つ魅力に気付いていない。だから、会津に残って生活する意味が見出せなくて若者の流出が進むと考える。
- ・会津大学を中心に宇宙産業やIT産業のまちとしてやれないだろうか。